



第334号
2014年12月号
www.bestopia.jp



ベートーベン 「第九」 邦訳

1：楽譜にそった邦訳

日本では12月が「第九のシーズン」になっています。嬉しいことです。

多くの方がこの偉大な芸術に接することができる、その機会が増え、一年を振り返り、新しい年を迎えようと覚醒できることは、その人の人生のどこかの局面で救いになると思います。

「第九」は理屈抜きに、ひたすらに聴くだけで感性が動きますから、私のように言葉の枝葉にこだわる必要は全くありません。私自身もコンサート・ホールでは、こだわりを捨て、全身を「第九」に傾注するようにしています。然し、配られる邦訳を見ると首を傾げる事が沢山あって、理性的には、筋道に合っていない、感性的には、腑に落ちないのです。邦訳には真剣さを感じるものが未だにありません。そんなことから自分が納得できる邦訳に挑戦したいと一念発起し数年が過ぎました。幸いにして私は自由人なので誰の遠慮もいらず、批判も気にせずに勝手なことができますが、奔放という訳けにはいきません。楽譜も読めない、ドイツ語も分からない自分の能力の低さを補う為に相当の学習もしました。その間に、同じ興味を持つ研究者の方とも知己になり、沢山の教えを頂きました。未解決のところもありますが73歳訳を記録に留めることにします。

合唱はシラーの「歓喜に寄す」の詩歌からベートーベンが抜粋していますが、ベートーベンが意図した「歓喜」とは何かを探る為にどこを強調しているのかを知る必要があると感じ歌詞付きの楽譜を求めて、ひたすら自分の感性を奮い立たせて、歌詞を私流に日本語にしてみました。

2:第4楽章

楽譜から私ができることは第九の第4楽章が940の小節からなっていて演奏時間は約25分という事です。聴きやすくする工夫をしました。

(1)序奏 (1-91)

管楽器とティンパニーによる大音響によって始まります。第3楽章の安らかな平穏さが打ち破られます。

その後に第1楽章が奏でられますが、低音弦のユニゾンが「そのような調べではない」と否定します。第2楽章も又憧れの静けさと美しさをもつ第3楽章も同じように否定されます。

そして「歓喜の歌」4小節だけが管楽器のみで顔を出すのですが、それも否定されます。ここでは管楽器は現実の世界、弦楽器が理想の世界を象徴しているため、管楽器だけが演奏したのでは求める新しい「歓喜」には至らないという事なのでしょう。

(2)オーケストラによる「歓喜の歌」(92～207)

待ちに待った「歓喜の歌」が①チェロとコントラバスによって淡々と奏でられます。

②ヴィオラとファゴットがこれに加わり、明るさと自由な動きが出てきます。

③第1ヴィオリンと第2ヴィオリンが入り美しい6重奏になります。

④そして、全合奏により主題が力一杯に演奏され、感極まった所でバリトン・ソロがあの特徴的な歌詞を歌い始めます。

(3)ベートーベンの宣言(208～236)

以下邦訳は添付資料を参照してください。ここでは私の独自の考え(イメージしたこと)を記します。

「おお友よ！これらの調べではない、歓びに満ちた、歌を歌おうではないか！」の呼びかけは

「新しい歌を主に向かってうたい美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ」(詩編33-3)

「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え」(詩編96-1)

このように響いてきます。

(4)バリトン・ソロによる「歓喜の歌」(237～256)

ベートーベンが主張したい歓喜とはなにか？

「美しき神の輝き」のイメージは古の詩人が歌った御顔の光だと感じました。

「主よ、わたしたちに御顔の光を向けてください」(詩編4-7)

「あなたの僕に御顔の光を注ぎ慈しみ深く、わたしをお救いください」(詩編31:17)

「神よ、わたしたちを連れ帰り御顔の光を輝かせわたしたちをお救いください」(詩編80:4)

「楽園からの乙女」は天使のイメージと考えます。薄幸の家庭に育ち、失恋を重ね母性の優しさを追い求めた姿を背後に感じます。これらの体験を不滅の恋人論に昇華し普遍的に浄化したのがベートーベンの偉大さの一つです。

神の不思議な力と慈しみの深い愛のもとで人間は皆兄弟になるところは、繰り返し歌われます。

(5)この世の喜び(269～284)

このところは従来の権威ある邦訳を少し変えました。ドイツ語のSeele=魂と訳されますが、私には意味を噛み砕くことが出来ていません。「この世で、悟りを得たものも、喜べ」と訳したいところです。悟りを物質的な欲望から自由になった無の境地として。魂にはドイツ特有の解釈があるのか？今後の解明課題です。

いずれにしてもここで歌われているのは「歓喜」ではありません。現世的な喜びにすぎない。だから、これらのことが出来なかった人も失望しなくていい。その群れを潔く離れ、真の歓喜を求めればいいと、このところは小さい声で歌われます。

(6)神の存在・前半 ソロ 4重唱(297～312)

ここの邦訳が最も難しく理解出来ていません。「自然の乳房」とは何か。何の喩えか？

シラーの諧謔生を理解しないと分からないかも知れません。

今の段階の理解は自然＝本性と取れるところから「種の保存本能」と解しています。

薔薇は「アフロディーテ」の花との説があり、愛と美、春を象徴していますが、また、移ろい行く人生、生老病死、死と来世意の象徴という考えもあるようで、刺のある薔薇の枝の向こうには美しい花がある。その美に達するには幾つもの試練を通らなければならないと常識的に解釈しました。

もう一つの難問が「接吻」の解釈です。ここに出てくるKusseと後ほど出てくkuSですが、接吻は愛の行為で且つ赦し合いの行為です。軽い親愛の挨拶もありますがこの文脈からは不適當です。

人間への神からの無償の赦し＝無償の愛と考えました。

Rebenの邦訳は統一性がなくまちまちで不自然なものが多いですが、辞書では「ぶどうの蔓」とあります。旧約聖書イザヤ書24-7に一カ所Rebenが使われていると清水窈子先生からおそわりました。この箇所は「神の世界審判」のところで「新しい酒は乾き、ぶどうのつるは枯れる」とあります。シラー詩では「快樂は虫けらどもに与えられた」と続きますから、裁きに関することかとも考えられますが理解が及びません。

ぶどうの蔓はどんどん伸びていきます。時代を継いで行きますので私は子孫と考えました。

然し「虫けらー」が解決しません。

und 天使が神の前に立つと2度歌われ更に「神の前に」が3度歌われます。

この天使の役割は何か？悔い改めの警告か？救いの良い知らせか？

この辺りは歌声で判断しています。

(7)オーケストラ・(331～374)

トルコ行進曲も入る、快活に。ピッコロ（ベートーベンが初めて用いたといわれます）、シンバル、トライアングルも加わり速いテンポで進みます。

(8)神の計画 テナー・ソロ (375～431)

ここはシラー詩の第4詩節の後半の4行で前半の8行をベートーベンは採用していませんが、歓びを大自然の中に例示しているところです。藤井義正氏の邦訳は次のとおりです。

「歓喜とは、永劫の自然の中の、強いバネのこと。歓喜こそ、歓喜こそ、偉大な世界時計の歯車を動かすもの。蕾から花を誘い出し、天空より恒星たちを誘い出す。天文学者の望遠鏡でさえ観測できない、宇宙のもろもろの天体を動かすもの」

この前段があつて、「喜々として、空の星々が壮麗な神の計画によって飛び交うように、駆け巡れ兄弟よ、君たちの道を、喜び一杯に。英雄が勝利に向かって進むように、駆け巡れ」となります。前段の意義を通して全体的な理解が可能になるところです。

(9)オーケストラ (435～542)

(10)歓喜の歌 2度目の合唱 (543～590)

(11)神の愛を世界に、抱かれてあれ！（５９５～６２６）

藤井義正氏が一番力を入れておられる所です。文法的に受動態の命令文になっています。一般の訳は「抱き合おう、幾百万の人々よ」となっていますが「抱かれて、在れ」とするのが正しいと私も考えます。このフレーズはシラー詩の第１詩節の後半部分です。ベートーベンが第１詩を分割して引用しています。第１詩の全体を私の訳で示します

(A) 歓喜、歓喜、歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女

我ら、陶醉勇躍して、あなたの聖なるみ国に入ります。

あなたの偉大な力は再び結びあわせませ、

時代の波が残酷にも、引き裂いたものを

全ての人間は、兄弟となる、

あなたの慈しみふかいみ翼の陰で

(B) 抱かれて生きよ（神の愛に）、幾百万の人々よ、

（神の）接吻を全世界に

兄弟たちよ、あの青雲の彼方に

必ずや愛しい父なる神はおられる

このように解釈してを聴くと私には次の讚美歌（２９１）が響いてきます。

①主に任せよ、汝が身を、主はよろこび、たすけまさん。

しのびて、春を待て、雪は溶けて、花は咲かん

嵐にも、闇にも、ただ任せよ、汝が身を

②主に任せよ、汝が身を、主はよろこび、たすけまさん。

悩みは、強くとも、み恵みには、勝を得じ、

まことなる、主の手に、ただ任せよ、汝が身を

(12) 神の存在 2 シラー第 3 詩の後半（６３１～６５４）

ひれ伏して拝め、幾百万の人々よ、感じよ、創造主を、世界よ！

星空の彼方に、創造主を求めよ。星空の彼方に、必ずや、創造主は住み給う

(13)二重フーガ 合唱（６５５～７２９）

(11)で記しましたシラーの第１詩の (A) と (B) をパートに分かれて同時に合唱するところです。添付資料に詳しく書きました。歓喜の歌の全体像を二重に歌い上げます

(14)神の存在 2 (12)の再現（７３０～７６２）

ソリストが順番に歌いだし、合唱となる

(15)歓喜の歌 ソリスト 4 重唱（７６３～８４２）

(16)コーダー（８４３～９４０）

①オーケストラのみ（８４３～８５４）

②合唱（８５５～９２０）

シラー第 1 詩の後半「全世界に」が 7 回繰り返されます。

最後は、一番前、始まりの文となります。最初と最後が同じ言葉になります。

歓喜、美しい神の輝き、美しい神の輝き、楽園からの乙女、
歓喜、美しい神の輝き、美しい神の輝き。

③オーケストラのみ（921～940）完了

エピローグ

ベートーベンが主張したかった「歓喜」とは「美しく輝く神に抱かれること」と解します。その生涯のどこに喜びがあったかを探し出すのが難しいベートーベンの人生です。病は難聴から失聴へ進み、失望こそが主題になる人生です。天地を揺るがすほどの極限の試練の中であらゆる存在の奥にひそむ、絶妙の響きをだすベートーベンの作品の大部分が永遠の価値を持っています。ベートーベンの中で、「試練は人の心の底にある世俗的なものを打ち砕いて心を神聖にする」偉大さは精神的な内容から来ています。聴きさえすれば、その感性があればすぐにわかることで、私のように言葉にこだわる必要はありません。

特に「歓喜の歌」のメロディーは難しくなく、身近な曲です。第1楽章から第3楽章の難しい調べにNoと言った訳ですが、万を期して出てきたのがこのメロディーであったことは安心感と安堵を感じます。「星空の彼方に創造主を求めよ。神はあなたの近くにいます」と解するとことも可能です。

ともかく私はこの73歳訳でもって今年第九を聴きたいと思います。

最後に私は今バレエに凝っています。その契機となったのは熊川哲也さんの怪我からの復活の「第九」でした。素晴らしい振り付けと彼自身の踊り、全員の統合の美が見る音楽を作り出しています。バレエはその場でバレリーナの忍耐と試練の跡がその場で実感でき、そこから醸し出される美しさ優雅さが感動と清浄感を与えます。「今ここ」気の抜けない動きが伝わる素晴らしい芸術です。先月ズービンメーターさんが指揮をした「第九」が今年22日24時からNHK・BS-プレミアムで放映されます。必見の価値があります。

この2年間近くとても沢山の資料と豊かな知識で根気よく私を導いてくださった藤井義正様へは謝辞の言葉がありません。本当に有難うございます。

藤井さんの「晩晴塾」今年の最後は12月17日13時からです。もちろん「第九」です。

私は今年も大晦日は午後1時から翌朝にかけて演奏されますベートーベンの全交響曲を聴きに上野にいきます。寛永寺の鐘がなる頃は第九の絶頂のところですよ。真に爽やかな元旦が待っています。

第九・私邦訳

73歳訳

- (1) おお！友よ、これらの調べではない、
もっと歡びに満ちた、新しい歌を歌おうではないか！
- (2) 歡喜、歡喜、歡喜、美しき神の輝き、樂園からの乙女
我ら、陶醉勇躍して、あなたの聖なるみ国に入ります。
あなたの偉大な力は、再び結び合わせます、
時代の波が残酷にも、引き裂いたものを。
全ての人間は、みな兄弟となる、
あなたの 慈しみふかい み翼の下で。
- (3) この地上で、大きな事業に成功をした者、
一人の友の友となることが出来た者、
優しい妻を得た者は 喜べ！
そうだこの世で悟り得たものも、喜べ
そして、出来なかった者は、涙してこれらの群れに別れをつけよ
- (4) 全て存在するものは、自然の乳房から、歡喜を飲む
善人も、悪人も 全ての人バラの道を辿る。
接吻（神の愛）は我々と子孫に、一人の死を経験した友を与えてくれた。
快樂は虫けらどもに与えられた。
そして、天使が神の前に立っている
- (5) 喜々として、空の星々が壮麗な神の計画によって飛び交うように、
駆け巡れ、兄弟よ、君たちの道を、喜び一杯に。
英雄が勝利に向かって進むように
- (6) 抱かれて生きよ（神の愛に） 幾百万の人々よ、
（神に抱かれたぬくもり接吻）その愛を全世界に
兄弟たちよ、あの星空の彼方に
必ずや、愛しい父なる神は住み給う。
- (7) ひれ伏して拝め、幾百万の人々よ。感じよ、創造主を、世界よ！
星空の彼方に、創造主を求めよ！
端空の彼方に、必ずや、愛しい父は住み給う

以下はメモです

第4楽章 小節歌詞全訳

(1)序奏 1～91

(2)歓喜の歌 オーケストラのみ4回 92～207

(3)ベートーヴェンの宣言 208～236

Freude, Freude, Freude,

おお！友よ、これらの調べではない、歓びに満ちた、歌を歌おうではないか！

(4)歓喜の歌、バリトン・ソロ 237～256

歓喜、歓喜、歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女
我ら、陶醉勇躍して、あなたの聖なるみ国に入ります。
あなたの偉大な力は、再び結び合わせます、
時代の波が残酷にも、引き裂いたものを。
全ての人間は、みな兄弟となる、
あなたの 慈しみふかい み翼の下で。

合唱 257～264

あなたの偉大な力は、再び結び合わせます、
時代の波が残酷にも、引き裂いたものを。
全ての人間は、みな兄弟となる、
あなたの 慈しみふかい み翼の下で。

間奏4小節 265～268

(5)この世の喜び ソロ・アルト テナー バリトン 269～284

この地上で、大きな事業に成功をなしえた者、
一人の友の友となることが出来た者、
優しい妻を得た者は 喜び！
そうだこの世で悟りを得たものも、喜び
そして、出来なかった者は、涙してこれらの群れに別れをつけよ

合唱 285～292

そうだこの世で悟りを得たものも、喜び
そして、出来なかった者は、涙してこれらの群れに別れをつけよ

間奏4小節 293～296

(6)神の存在・前半 ソロ・4重唱 297～312

全て存在するものは、自然の乳房から、歓喜を飲む
善人も、悪人も 全ての人バラの道を辿る。
接吻（神の愛）は我々と子孫に、一人の死を経験した友を与えてくれた。
快樂は虫けらどもに与えられた。
そして、天使が神の前に立っている

合唱 313～330

接吻（神の愛）は我々と子孫に、一人の死を経験した友を与えてくれた。
快樂は虫けらどもに与えられた。
そして、天使が神の前に立っている。天使が神の前に立っている。
神の前に、神の前に（327-328）、神の前に(329-330)

(7)フル・オーケストラ 331～374 快活に

トルコ行進曲ピッコロ、シンバル、トライアングル

(8)神の計画 ソロ・テナー 375～410

喜々として、空の星々が壮麗な神の計画によって飛び交うように、
駆け巡れ、兄弟よ、君たちの道を、喜び一杯に。
英雄が勝利に向かって進むように

テナーと男性合唱 4 1 1 ~ 4 3 1

駆け巡れ、兄弟よ、君たちは君たちの道を、喜び一杯に
英雄が勝利に向かって進むように
英雄が勝利に向かって進むように

3小節無音 4 3 2 ~ 4 3 4

(9)フル・オーケストラ 4 3 5 ~ 5 4 2 ——— 苦しみを越えて歓喜へ

次第ににがく苦しい音楽へと変わる。激しい音楽は俗世間から聖なる神の国への道を示す。

これこそベートーヴェンの究極点（苦しみを越えて歓喜へ）

目的地を前にした演奏、、ホルンの響きだけが余韻をのこす。

(10)歓喜の歌2 二度目の合唱

突然、弦楽器とオーボエがクレッシェンドすると、最強音の大合唱「歓喜の歌」天国のように晴れやかな、明るい開放弦を伴奏にして、苦しみを克服した「歓喜の爆発」最初の喜びのデーマが今度は単純なコラール（讃美歌）の形式を取っている

合唱—全ソリスト参加？ 5 4 3 ~ 5 9 0

歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女
我ら、陶醉勇躍して、あなたの聖なるみ国に入ります。
あなたの偉大な力は、再び結び合わせます、
時代の波が残酷にも、引き裂いたものを。
全ての人間は、みな兄弟となる、
あなたの 慈しみふかい み翼の下で。

あなたの偉大な力は、再び結びあわせます、

歴史が残酷にも、引き裂いたものを
全ての間人は、みな兄弟となる、
あなたの慈しみふかいみ翼の下で

間奏4小節 フェルマータのついた休止591～594

(1)接吻 (神の愛) 595～626

抱かれて生きよ (神の愛に) 幾百万の人々よ、
(神に抱かれたぬくもり接吻) その愛を全世界に

テナー・バス・男性合唱 595～605

抱かれて生きよ (神の愛に) 幾百万の人々よ、
(神に抱かれたぬくもりの接吻) その愛を全世

全合唱606～610

兄弟たちよ、あの星空の彼方に
必ずや愛しい父なる神は住み給う

男性合唱611～618

兄弟たちよ、あの星空の彼方に
必ずや愛しい父なる神は住み給う

全合唱619～626

(2)神の存在2 627～630無音

合唱631～646

ひれ伏して拝め、幾百万の人々よ。感じよ、創造主を、世界よ！

青雲の彼方に、創造主を求めよ！

青雲の彼方に、必ずや、愛しい父は住み給う。

647～649オケのみ

青雲の彼方に、必ずや、創造主は住み給う。

650～654

(13)二重フーガ 「歓喜の歌」「接吻（神の愛）の歌」を二つのパートが同時に歌う

6 5 5 ~670,671,672,677

Xg 歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女
我ら、陶酔勇躍して、あなたの聖なるみ国に入ります。

Yg 抱かれて生きよ（神の愛に）幾百万の人々よ、
（神に抱かれた）その愛を全世界に

Xg 歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女
我ら、心酔して、あなたの聖なるみ国に入ります。

Yg 抱かれて生きよ（神の愛に）幾百万の人々よ、
（神に抱かれた）その愛を全世界に

役割の交代 6 7 0,678~

Xg 抱かれて生きよ（神の愛に）幾百万の人々よ、
（神に抱かれた）その愛を全世界に

（神に抱かれた）その愛を全世界に

Yg 歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女
我ら、心酔して、あなたの聖なるみ国に入ります。

歓喜、美しき神の輝き、楽園からの乙女

我ら、心酔して、あなたの聖なるみ国に入ります。聖なる地に

6 9 3 ~再び交代？ 7 2 9

Xg 歓喜、美しき神の輝き、我ら、心酔して、
あなたの聖なるみ国に入ります。

抱かれて生きよ（神の愛に）

抱かれ生きよ（神の愛に）幾百万の人々よ、

その接吻=神の愛を 神の愛を 全世界に 全世界に——— 7 2 6
全世界に

Yg 抱かれて生きよ（神の愛に）幾百万の人々よ、
接吻=神の愛を全世界に

歓喜、美しき神の輝き、我ら、心酔して、

あなたの聖なるみ国に入ります。

抱かれて生きよ（神の愛に） 抱かれて生きよ（神の愛に）

幾百万の人々よ、

その接吻（愛）を、その接吻（愛）を、全世界に、全世界に
歓喜、美しき神の輝き、我ら、心酔して、
あなたの聖なるみ国に入ります

(14)神の存在の主題

7 3 0 バス ひれ伏して拝め、幾百万の人々よ
7 3 4 テナー 感じよ、創造主を、世界よ！
7 3 8 アルト 星空の彼方に、創造主を求めよ！
7 4 2～7 6 2 一斉に 星空の彼方に、創造主を求めよ！
兄弟よ、兄弟よ、
星空の彼方に、必ずや、愛しい父は住み給う
愛しい父は住み給う。

(15)歓喜の歌 ソリスト 4重奏

7 6 3～7 6 6 オケのみ

7 6 7～テナー バス 歓喜、楽園からの乙女
7 6 9～ソプラノ アルト 歓喜、楽園からの乙女
7 7 2～7 7 6 オケのみ
7 7 7～ソプラノ アルト 歓喜、楽園からの乙女
7 7 9～テナー バス 歓喜、楽園からの乙女
7 8 2～ソプラノ あなたの偉大な力は再び結びあわせませす、

7 8 3～アルト

7 8 4～

時代の波が残酷にも、引き裂いたものを
あなたの偉大な力は再び結びあわせませす
時代の波が残酷にも、引き裂いたものを

2小節オケのみ 7 9 3～7 9 4

7 9 5～8 0 3 4重唱

あなたの偉大な力は、 あなたの偉大な力は
時代が残酷にも、引き裂いたものを
再び結びあわせませす、再び結びあわせませす、
時代が残酷にも、引き裂いたものを

2小節オケのみ 8 0 4～8 0 5

806～ 全ての人間は、全ての人間は、全ての人間は
全ての人間は、兄弟となる、
あなたの慈しみふかいみ翼の下で

3小節オケのみ815～817

818～ あなたの偉大な力は、 あなたの偉大な力は、
時代の波が残酷にも、引き裂いたものを

2小節オケのみ825～82

827～

全ての人間は、全ての人間は、全ての人間は

全ての人間は、兄弟となる
あなたの慈しみふかいみ翼の下で
あなたの慈しみふかいみ翼の下で

842

(16)コーダー843～854オケのみ

855～

抱かれて生きよ（神の愛に） 幾百万の人々よ、
（神に抱かれたぬくもり）その愛を全世界に

864～

兄弟たちよ、あの星空の彼方に
必ずや愛しい父なる神は 愛しい父なる神は、
愛しい父なる神は、住み給う
抱かれて生きよ（神の愛に）抱かれて生きよ（神の愛に）
愛を全世界に、全世界に、全世界に

愛を全世界に、全世界に、全世界に、全世界に 903

904～歓喜、美しき神の輝き、美しき神の輝き、

915～ 楽園からの乙女

918～歓喜、美しき神の輝き、美しき神の輝き、

921～940オケのみ